

# 木曾の最期

## 用言助動詞確認テストへ ①～⑤

年 組 番 名前

15 点

4点以上で合格！

次の **a**～**d** 傍線部の語（または傍線部が含まれている語）が、**用言**または**補助動詞**の場合はその活用の行・種類と活用形を記し、**助動詞**の場合はその文法的意味と活用形を記しなさい。

①今井四郎、木曾殿、主従二騎になつて、のたまひけるは、「日ごろは何とも **a おぼえ**ぬ鎧が、今日は重うなつたるぞや。」②今井四郎申しけるは、「御身もいまだ疲れ**bさせ**たまはず、御馬も弱り候はず。③何によつてか、一領の御着背長を重うはおぼしめし候ふべき。④それは、御方に御勢が候は **c ねば**、臆病でこそさはおぼしめし**e 候へ**。⑤兼平一人候ふとも、余の武者千騎と **e おぼしめせ**。

活用の行・種類又は文法的意味

活用形

活用の行・種類又は文法的意味

活用形

e	c	a
d	b	

4点以上で合格！

13/01/02

# 木曾の最期

## 用言助動詞確認テストへ ⑥～⑩

年 組 番 名前

15 点

次の **a**～**d** 傍線部の語（または傍線部が含まれている語）が、**用言**または**補助動詞**の場合はその活用の行・種類と活用形を記し、**助動詞**の場合はその文法的意味と活用形を記しなさい。

⑥矢七つ八つ候へば、しばらく防き矢つかまつら **a ん**。⑦あれに **b 見え**候ふ、栗津の松原と申す、あの松の中へ御自害候へ。」とて、打つて行くほどに、⑧また新手の武者、五十騎ばかり出で **c 来** **d たり**。⑨「君はあの松原へ入らせたまへ。⑩兼平はこのかたき防き候はん。」と申しけ **e れば**、

活用の行・種類又は文法的意味

活用形

活用の行・種類又は文法的意味

活用形

e	c	a
d	b	

4点以上で合格！

copyright © 2012 片桐史裕

4点以上で合格！

13/01/02

# 木曾の最期

## 用言助動詞確認テスト三 ⑪～⑯

年 組 番 名前

5 点

次の **a**～**d** 傍線部の語（または傍線部が含まれている語）が、**用言または補助動詞**の場合はその活用の行・種類と活用形を記し、**助動詞**の場合はその文法的意味と活用形を記しなさい。

⑪木曾殿のたまひけるは、「義仲、都にていかにもなるべかり **a**つるが、これまで逃れ来るは、なんぢと一所で死な **b**んと思ふためなり。⑫ところでこそ討ち死にをも **c**せめ。」とて、馬の鼻を並べて駆けんとしたまへば、⑬今井四郎、馬より飛び下り、主の馬の口に取りついて申しけるは、⑭「弓矢取りは、年ごろ日ごろいかなる高名候へども、最後のとき不覚しつれば、長き疵にて **d**候ふなり。⑮御身は **e**疲れさせたまひて候ふ。

活用の行・種類又は文法的意味

活用形

活用の行・種類又は文法的意味

活用形

e	c	a	d	b
---	---	---	---	---

4点以上で合格！

13/01/02

## 木曾の最期 用言助動詞確認テスト四 ⑯～⑳

5 点

次の **a**～**d** 傍線部の語（または傍線部が含まれている語）が、**用言または補助動詞**の場合はその活用の行・種類と活用形を記し、**助動詞**の場合はその文法的意味と活用形を記しなさい。

⑯続く勢は候はず。⑰かたきに押し隔てら **a**れ、言ふかひなき人の郎等に組み落とされ **b**させたまひて、討たれさせたまひ **c**なば、⑱『さばかり日本國に聞こえさせたまひ **d**つる木曾殿をば、それがしが郎等の討ちたてまつたる。』⑲なんぢ申さんこそ、**e**くちをしう候へ。⑳ただあの松原へ入らせたまへ。』と申しければ、

活用の行・種類又は文法的意味

活用形

活用の行・種類又は文法的意味

活用形

4点以上で合格！

copyright © 2012 片桐史裕

13/01/02